



市長コラム

～未来への架け橋～

今年の冬は近年にない大雪に見舞われており、市民の皆さまも大変ご苦勞をされていることと存じます。市では、今冬からGPS（衛星利用測位システム）を利用した、除排雪管理方法を導入しているところであり、除排雪の効率化を図りながら、市民の皆さまのご不便を少しでも解消できるよう努めてまいります。



また、私から市民の皆さまにお願いですが、一人暮らし高齢者の方や高齢者の方のみの世帯が多くなっていますので、近隣にそういった自力での除雪が困難な世帯がありましたら、ぜひ気を配っていただき、手助けをしてくださるようお願いいたします。市等が行う除排雪などの「公助」とともに、地域で支え合う「共助」がこの豪雪を乗り切るため重要となってまいりますので、ご協力を賜りますよう、よろしく申し上げます。

さて、新型コロナウイルスについては、首都圏をはじめ全国各地において、これまでも増して感染が拡大しており、1月7日に政府は首都圏1都3県を対象に「緊急事態宣言」を発出しました。本県においても、他市では次々とクラスターが発生したほか、当市でも感染者が発生しており、事態はますます厳しさを増しています。ウイルス感染のリスクは身近になっており、私たちもいつ感染してもおかしくない状況になっています。今は感染拡大防止が最

優先課題であり、市でも感染防止への取り組みを徹底して行ってまいります。感染予防の基本は、個人の責任ある行動によるところが極めて大きいものと考えています。市民の皆さまには「感染しない、感染させない」という意識を持っていただき、決して油断することなく、ご自身やご家族、そして社会全体を守るため、感染拡大防止に向けて最大限の注意を払っていただきますようご理解とご協力をお願いいたします。

市といたしましても、市民生活と経済活動を守るため、各種支援策を引き続き講じてまいりますので、市民の皆さまにおかれましては、困りごとやお悩みがありましたら、遠慮なく市役所の各窓口にご相談いただければと思います。

未だコロナ収束の見通しは立っておりませんが、一日でも早い収束を願うとともに、この災禍によって浮き彫りになったさまざまな問題に果敢に取り組んでまいります。



新型コロナウイルス感染症対策本部会議の様子

今月号の表紙

〔俵元地区、兼成健逸さん方での干し餅づくりの様子〕

今年も俵元地区で、津軽地方伝統の干し餅づくりが盛んに行われています。

普段は米とりんごを生産している兼成健逸さん（76歳）は、12月初旬から生産を始め、1月8日時点では餅を紐で編む作業を行っていました。

兼成さんは「うちでは、黄・緑・ピンクなど色をつけている。また、干し餅は完全に乾燥させないと食感が良くならない」と話し、手間暇かけた作業が必要とのことでした。しかし、手伝ってくれる人も高齢化で少なくなり、若い人だと紐で編むこともできないため、生産するのもあと5～6年ではないかと話します。

津軽伝統の保存食。寒い日には、油で揚げたり、バター炒めで味わってみてはいかがでしょうか。

